

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第13回議事メモ

日時：2023年6月27日(火) 18:30～20:30

場所：オンラインzoom

参加者：47名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

Supported by



THE NIPPON  
FOUNDATION

# 「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」これまでの経緯

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY) 代表理事 栗田暢之

## ●当ネットワーク活動の近況について

・東日本大震災の避難者との刺繍交流会を定期的に行っているが、中日新聞の記事をご覧になって刺繍糸を3000本以上寄付して下さった方がいらっしゃり、6月の交流会にもご参加頂いた。このような交流会を行うことでホッとしていただけたらと思っている。

●本ネットワークは、一人ひとりへの支援を丁寧に行うために、民は民でできること、官は官でできることを情報交換しあい、より有益な支援に繋げていこうと活動している。

●昨年6月10日に情報共有会議第1回を開始し、多くの方にご参加頂いた。その頃は愛知県内に40人くらいの避難者数だったと思うので、倍以上の方がお越しになっている。(右図参照)

●戦争がまだ続いており、必死に避難生活を送られている方々に少しでも癒やしの時間を持っていただきたく、秋に温泉地で交流会を行う予定。この後説明したい。

●ネットワークのメンバーは多様な背景を持っているが、それぞれが知恵を出し合って積極的に行動していこうという組織である。

●一人ひとりのニーズに即した支援を大事にしている。避難者が居住している土地土地で支援体制を構築することが必要と考えており、その意味で市町村との連携が重要と考えている。



# 自治体、支援団体からの報告と質疑

## ●愛知県 多文化共生推進室

愛知県では新規の避難民への生活一時金とSIMカードの支給をしている。すでに在住されている方へも希望者へ寄付物品の配送を行っている。これまで、例えばライオン株式会社から洗剤、ユニクロから衣料品の寄付をいただいて配送を行ってきた。直近(6月21日)では、昨年もお寄付いただいたライオン株式会社から洗濯洗剤や歯ブラシ等、また、静岡の農家からビーツをいただいて避難者に配送した。また、希望者には、愛知県芸術劇場から寄附いただいたダンス公演の招待券を配送した。昨年に続き、オンラインの日本語教室も実施予定。秋(9月ごろ)第一回開催予定で準備を進めている。

## ●名古屋市 国際交流課

8月24日のウクライナ独立記念日に合わせて、近い日付でウクライナデーをJUCAと計画している。また、毎月10日に久屋大通のイベントでブースを出しているが、夏は猛暑のため出展を見送る。秋になったらぜひみなさんにも参加を頂きたい。ウクライナの伝統的な人形(モタンカ)を親子で作るイベントを8月5日(土)に開催予定。ウクライナ文化を伝えながら支援をしていきたい。

「モタンカ」づくりについては以下URL参照 [https://www.jinken.city.nagoya.jp/files/center\\_event/EVENT\\_648592653b708.pdf](https://www.jinken.city.nagoya.jp/files/center_event/EVENT_648592653b708.pdf)

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

- あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## ◎ネットワークとしての活動報告

- \* 自治体訪問:3件 \* 物資の引取り・お届け(家具・家電・野菜・日本人形・刺繍糸・石鹸等)
- \* 入管やイベントへの同行 \* 日本語習得のボランティア \* 相談事により、各種問い合わせ
- \* イベント:ししゅうの会

## ◎名古屋市委託事業としての活動報告

- \* 支援登録窓口問い合わせ対応 \* 個別訪問 \* 各種相談対応
- \* 区役所や病院への同行 \* 物資提供:保存食品・飲料・菓子類・調味料・野菜等
- \* イベント:整体

・野菜(ビーツ)をたくさんいただいた。本日もビーツ掘りのイベントを実施し、避難者とともに収穫をした。企業から食品や保存食品をいただいたり、定期的にお越しいただいている団体からの支援物資と陳列のご協力もあった。日本人形の提供があり、希望者がいるかどうかと思っていたが、数名いらっしゃり届けることができた。

・刺繍糸を提供してくださった方が「刺繍の会」当日と一緒にご参加いただき交流することができた。刺繍だけをするわけではなく、料理が得意な人は軽食を作ってください。東日本大震災の避難者がウクライナの刺繍を学び、バザーで販売、支援に繋がりたいという案が出ている。

・整体イベントを開催したが、予約枠はすぐにいっぱいになった。学生ボランティアによる通訳で施術の前に問診を行い、翌日にだるさがあるなどの注意事項もお伝えすることができた。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

●あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## 【個別相談への対応】

- \* 病院を探してほしい／予約と同行(眼科・歯科) \* 日本の運転免許取得について(一次試験の同行等)
- \* 購入したものの運搬(ソファ・網戸) \* 欲しいものの購入場所を教えてください
- \* 区役所への申請／同行(税金の減免・住民票) \* 在留資格の更新の為入管への同行
- \* 履歴書作成 \* 現在の仕事を変わりたい \* もっと日本語を勉強したい その他諸々

## 【課題】

- \* 日本財団支援金終了による、新規避難者について(生活への不安の声)  
→まずは現時点でできる生活用品・家具家電の支援に繋ぐ
- \* 医療サポートの必要性
- \* 経済的不安→就労に繋がっていない
- \* 心的ケアの必要性  
→現在は交流会を開催して一時の楽しみの時間を持っていただいている。今後専門家につなぐことができるようにするにはどうしたらいいかと考えている。
- \* 新規支援者登録の減少:登録総件数:企業・団体:59件(+1)、個人:169件(+4)  
マッチング総件数:企業・団体:74件(+8)、個人:110件(+9)

# 至学館大学～ウクライナ女子レスリングナショナルチームの受け入れについて

秘書・広報室部門 佐藤友子さん

- ・2022年春(戦争開始後2ヶ月程度)に「自分たちらしくできる支援とは何か」を考えて谷岡学長(日本レスリング協会副会長)がウクライナレスリング協会に合同練習(練習場所の提供)をオファーした。
- ・2023年6月に選手12名、コーチら5名が来日した。
- ・ウクライナは団体戦は世界戦、ヨーロッパ戦でも優勝しているほどとても強い。東京オリンピックで銅メダルを取った選手もいる。
- ・右図で写真が配置されているところが、それぞれメンバーの練習拠点。ナショナルチームが時々キーウに集まって練習しているそうだが、戦争が始まってから自国内では十分練習ができないので、各国を転々として練習しており、日本は9カ国目とのこと。国の予算も大幅に軍事費に充てられており非常に厳しい環境。
- ・現在選手たちは、至学館大学の寮に滞在。ヨーロッパ選手権を控えており、それを経ないとオリンピックに出られない。ロシアとベラルーシが出場する大会はボイコットしており、ウクライナレスリング協会として、その2国が出場しないように世界レスリング連合に求めている。もしロシアやベラルーシが出場すれば、それだけでオリンピックの切符を失うことになる。そのため、頑張ったからといって実るわけではないということが、精神的につらい状況となっている。



# 至学館大学～ウクライナ女子レスリングナショナルチームの受け入れについて

秘書・広報室部門 佐藤友子さん

- ・学内での様子について。本学の学生と抹茶や折り紙をして交流したり、附属幼稚園との交流など楽しそうにしてくれている。
- ・1年生向けの授業に登壇してもらい、自分たちの経験を写真や動画を使ってお話を頂いたが、涙ぐまれる場面もあった。チームマネージャーはマリウポリに母を残しており、1ヶ月ほど生存が確認できない時間があったようだ。
- ・お子さんが避難当時2ヶ月だったユリアさんは、どのような支援が得られるか悩んだ。ポーランドとレスリング協会経由で多くの支援が得られたと話していた。
- ・選手の中は、戦争を通じて、家族、生存の大切さを感じ1ヶ月前に結婚した方もいる。授業の中で涙を流した理由について戦前の美しいウクライナ映像と破壊された映像を見て涙を流したと仰っていた。また、寒い時期は地下でほとんど外に出られず過ごしていた。
- ・監督は、1年以上自宅に戻れていない。先日のダムの破壊で自宅付近が6メートル浸水。戦争が始まり、ミサイルで攻撃された近所の方の写真を見て、もう家には戻れないと思い早々に家を手放したそうだ。
- ・授業での話の後、学生たちが自然と選手たちのところに行き、話をしたり、握手をしたり、お互い英語があまり得意ではないが、一生懸命心を通わせようとする姿があった。
- ・選手たちはメディア対応を積極的にしてくださっているが、イリーナさんは「それが自分たちの社会的責任だ」と仰っていた。一方で戦争中にレスリングをしている余裕があるのかと言われることもある。「自分たちが頑張ることがウクライナ国民の励みになる」、「国旗が掲揚されることで、武力には屈しない精神を示すことができる」という気持ちがあるのではないか。

# 至学館大学～ウクライナ女子レスリングナショナルチームの受け入れについて

秘書・広報室部門 佐藤友子さん

## ●担当者として感じた選手たちの抱える課題：

・住まいや故郷を離れる・破壊される、**家族が離れ離れるになる** 辛さ、一方で、国に残るとことへの **強い意志とプライド**

・**パリ五輪への出場権が得られないかも** しれない不安感

(IOC、UWW(世界レスリング連合)がロシアとベラルーシの参加を認める場合は試合に出場しない(ボイコット)ため、パリ五輪への出場権がかかるヨーロッパ選手権、世界選手権に出場できない可能性がある)

・サイレン(5-7時間鳴り続けている時もある)が鳴り続け、ミサイルがいつ飛んでくるかわからない **不安感**

・**練習環境の不安定**さ(特に経済面での制限)

・時間経過による、**必要な支援の多様化?**

・報道と現実の差(数字と現実・実態のギャップ)、忘れられる恐怖心?

## ●今後の支援について

・引き続き、レスリングを通じた交流・支援

・2023年11月に若い世代の(ウクライナレスリング選手の)練習の受け入れを予定

# 大交流会について

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク 向井忍

ウクライナの皆さんは、不安、いつ戻れるかという見通しが持てない中で時間が過ぎている。そのような中でゆっくりしていただきたいという目的で大交流会を開催する。

●日時:2023年11月18日-19日

●場所:三河湾のリゾートリンクス(海辺、プライベートビーチ、温泉もありゆっくりしていただける)

●開催目的:日本での避難生活が長期化する中、多くの避難者が心身ともに疲弊しているため、1泊2日で心と体をゆっくり休めてもらう時間と空間を提供する。その際、市町村や各種支援団体、士業や臨床心理士、医師などにも参加いただき、総合的な相談体制を整え、以降も相談できる関係性を築く。

\* 東日本大震災の時も同じ場所で交流会を開催し、避難してから3年目に「自分は初めてゆっくりしてもいいんだと思えた」と話していた避難者の方がいた。

\* 心のケア、学校に通う子どものこと、新しい問題がある。課題は多様化してきている。迎える私たちは(自治体、県、日本語教室、専門家)、11月の時点でできる精一杯の相談の場を用意して、その後も相談対応ができる体制を作りたい。

●参加者:避難者70名(予定)交通費も含めて無料でお迎えしたい。身元保証人や家族には、若干の参加費をお願いして参加いただく。会場、部屋の余裕が多少あれば、予算的な対応をして可能な方に参加いただきたい。自治体の担当者、支援団体のみならずも含めてこの2日間をうまく使って、気軽に話ができる、何かがあれば相談ができるという場を持ちたい。

# 大交流会について

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク 向井忍

●主な内容:チェックイン後、夕食までは自由時間(希望者にはオプションで屋外のレクリエーション)。歓迎式典、夕食(文化交流等)。2日目は、専門家による相談会(医療、心のケア、法的手続き、在留資格、仕事)。通訳を含めて同じテーマ(例:子育て)を持った人たちが複数で話ができる場を作ってはどうかと検討している。

また、近隣の観光にも自由行動として行っていただけるようにしたい。

●自治体にも順次案内している。自治体、ボランティア、専門家、多様な団体、雇用されている(企業)が協力してネットワークを作っている。皆で協力して準備をしたい。それぞれの地域で解決できていることもあるかもしれないが、一堂に介して、一緒に解決できることがあるかもしれない。お互いがつながり、心をこめて受け入れることができると考えている。順次中身を明確にしてい く予定。それぞれの力(働く、学ぶ、教育、医療など)を合わせてご協力願いたい。また、資金的な支援、助成金を超える部分の資金の協力もお願いしたい。

# JUCA (NPO 法人 日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榎原ナターリアさん

●川口リュドミラさんが現在ウクライナに一時帰国中。現地から状況を伝えていただく。

・6月23日に日本を出発。キーウまで飛行機は飛ばないので、ドイツからバスで30時間程度、私は1600キロメートルほど知人の車に同乗しジトーミル州まで移動した。ヨーロッパでは普通に生活しているが、ウクライナに入った途端に、(事前に用意したウクライナの携帯会社の回線を使っても)携帯の電波が繋がらなくなった。ロシア軍から身を守るために電波がない方が安全だから、ウクライナ政府が道路上は電波が繋がらないようにしている。リビウ市に入ったら繋がるようになったが、道路上は電波がないようにしているようだ。

・夜は車が少ない。町に入る度ごとに持ち物等チェックされる。ポーランドからジトーミルまで5-6時間と思っていたが、国境で混雑し、車で3時間半ほど待ち時間があり、予想以上に時間がかかり、一昨日夜に着いた。

・街の中では普通に生活している。今のところサイレンはなっていないが、心配なので、どこに防空壕や避難所があるか確認している。歩いている人にも軍の服を来ている女性も男性もたくさんいる。

・現在、9階建てのマンションに滞在しているが、地下まで避難するのが大変。日本に避難している妹から、「自分の家には地下室があるので、心配であれば、自宅を使って」と言われている。

・日本で自分たちがバザーで売っているような「ウクライナがんばりましょう」「ウクライナに勝利を」というTシャツを、子どもから大人まで日常的に着ている。4年ぶりにウクライナに来たが、ウクライナ語を話す人が本当に多くなった。ウクライナが勝利するエネルギーをすごく感じている。また、戦争が終わったら復興するというエネルギーを多くの人たちから感じている。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・去年の3月に妹の家の近くにミサイルが落ちた。軍事のところではなく普通の家だが、直せないから草がぼうぼうになっていた。隣の病院が破壊されていたが、きれいに直されていた。使うところは戦争中でも直す。
- ・東ウクライナからジトーミルに避難している方々のところにも行く予定なので、来月の会議で報告したい。
- ・日本から持参した支援物資は、粉末スープ、蚊よけ、アルミシート、1回分のシャンプー、骨折したときに使うテープなど。昼は27度、夜は15度くらいになって寒いのでアルミシートが役にたつのではないか。支援物資は東ウクライナに送る予定。
- ・移動途中の大きな道は大丈夫だったが、破壊された道は舗装して直している。必要なところはすぐに修繕するが、そうでないところはそのままとなっている。戦争が終わってから。
- Qテレビ・ラジオはどんな放送をしているのか？→ラジオでは戦争のニュースをずっと放送している。毎日朝9時に戦争で亡くなった人のための黙禱が行われている、びっくりした。
- ・ドライブレコーダーは、車から外し隠しなさいと言われた。万が一、軍関連の情報が写ってしまうといけけないので。
- ・日本の団体から頂いた寄付を、今日、キーウの団体に渡す贈呈式を予定している。

## ●JUCAの活動報告

- ・7月に三重県のイベントに出展する。
- ・毎月第4火曜日ウクライナランチイベントを榮で行う。今日がその初日だったが、盛況ですぐに予約が埋まってしまうので、ぜひ早めに予約をしてほしい。詳細はJUCAのフェイスブックを見てほしい。

# ブレイクアウトルーム共有

## 1. 支援活動全般について聞きたい

- ・自治体職員の方から、市に避難している方の就職について。若い方で日本語が少しずつ話せるようになって来ているが、なかなか就労に繋がらない(JUCAより、当該避難者が就労に繋がらそうだという情報提供があった)。PPIHは就労の際にウクライナ避難者ということで、書類を免除してもらうなど優遇がある。物資陳列などの仕事が多いが、就労に繋がっているので避難者にとっては非常にありがたいという紹介があった。
- ・岐阜の避難者のニーズによって、地域の団体と繋ぐなどサポートしたい。岐阜の避難者の状況を教えてほしいという意見。岐阜地域の団体の情報交換を行った。
- ・オンラインでウクライナ人の先生からウクライナ語を習っているが、現地で爆撃があり、心配している。とにかく授業中は先生に笑ってもらえるようにと思い、週1回の授業を楽しく過ごしたいと心がけているという話があった。

## 2. 子ども・若者について話したい

- ・最近デモで若い避難者の方を見かけることがなくなり、どんな状況か？という質問があった。RSYでは、一人ひとりの状況をカルテにまとめたり世帯訪問をしているところ。子どもや若者に直接声を聞くことはなかなかできていない。東日本大震災のときに、避難当時いじめに遭っていたことを後になって子どもから話を聞くこともあった。直接話を聞くことが大事と考えている。
- ・10代の子どもたちの進学、言葉のコミュニケーションは？という質問があった。JUCAの日本語教室に通っている方は、ロシア語で話しかけても日本語で返ってくる方もいたりして、勉強熱心と感じている。
- ・子どもの通訳をする時は、子どもが安心できる人が間に入るのがとても大事なこと。そのため、家族が間に入ること、子どもが安心できる環境を作る、子どもの心のケアができる専門家が間に入るという特別な配慮が要る。

# ブレイクアウトルーム共有

## 3. その他、大交流会やちょっとしたことについて

- ・大交流会のファンドレイジング、ボランティア参加はどのようにできるのか？ →確定次第案内したい。自治体の方は2日目の午前中に避難者の方を話を聞く相談会の時間があるので、その時間帯にご参加頂きたい。
- ・きょうされんのウクライナ障がい者支援について。ウクライナでは、ボランティア自身が攻撃を受けるという厳しい状況がある。長期的に支援するには顔が見える関係性を作ることが大事。障がいを持っているみなさんは、ご自分たちの経験からウクライナの状況がまさに自分自身に関わる問題という意識を持っているという話があった。
- ・JUCAの川口さんから。若い方が義足を付けてショッピングをしている光景をみた。戦争の影響かと思う。きょうされんでは、日本で障がいのある方を受け入れて、回復をしてもらうということができないかと考えているという話があった。ただ、家族を含めて、全員の受け入れができるか資金の問題もあるので検討が必要である。
- ・JUCAのウクライナランチイベントについて。イベントだが店名を付けるとわかりやすくなり、アピールできるのではという提案があった。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。